

2009-5-26 : 根津

建築環境部会 中間取りまとめ（骨子案）に対するコメント

<その1>

1. (3) 複数建築物の連携や面的な取り組みによる低炭素化の推進

原案では、熱や電力といったフィジカルなエネルギーの面的利用に関する存在が薄いように感じます。柏木先生のプレゼンにおいては、新たな技術の導入を念頭に、地域冷暖房やマイクログリッドなどの有効性や将来性が強調されたと記憶します。一方で、面的エネルギー利用に関しては、問題視されている地域冷暖房が存在するなど、すべてが省エネに繋がるとは限りません。以上から、表現を下記のように修正していただいてはいかがでしょうか。

・省CO2技術やITを駆使して、街区を単位としたエネルギーシステムの最適化をはかるとともに、エネルギーマネジメントシステム等の導入や環境性能の評価を通じて、エネルギーの面的利用を推進することが必要。

<その2>

1. (4) 既存ストックの省エネルギー性能の向上による低炭素化の推進

原案では、建物規模に対する記述がありません。既存ストックでも中小の建築物は資金等の制約から省エネ改修に踏み切れないケースが多いこと、数が膨大で国民生活にとっても身近な存在であることなどから、下記のような表現を追加していただいてはいかがでしょうか。

2 つめの段落に続く文書として → 潜在量が膨大であるにもかかわらずエネルギー改修が進みにくい中小の建築物に対しては、特段の配慮が重要。